

[学会]

## 第10回千葉糖尿病研究会

日時：平成4年8月22日（土）

会場：日本コンベンションセンター（幕張メッセ）

会長：千葉大二内 吉田 尚

### 1. 糖尿病神経障害に対する PGE<sub>1</sub> の治療効果

安部 通, 和智行夫, 小林 澄子  
福井 聡, 白石正治, 神山洋一郎  
飯島敏彦

(順天堂大附属浦安病院・麻酔科・内科)

PGE<sub>1</sub>は、末梢血管拡張作用、血小板凝集抑制作用、赤血球変形能改善作用などを有する。一方、糖尿病性神経障害はその成因として主に代謝障害と血管障害があげられ、密接に関係していると考えられる。今日、われわれは、糖尿病性神経障害の患者8名に PGE<sub>1</sub>点滴静注を行い、その効果を調べた。疼痛をはじめとする自覚症状と温痛覚、触覚などの他覚的所見をそれぞれ5項目に分け、0から2点に採点し、20点を満点とした。これをDPN スコア（Diabetic Poly-Neuropathy Score）と名づけ、治療前後で比較した結果、自覚症状スコアは有意に上昇、他覚的所見は上昇したものの有意差はなかった。これまでわれわれは、糖尿病性神経障害に対して交感神経ブロックを行い、良好な結果を得てきたが、今日の PGE<sub>1</sub>療法の方が長期的、しかもより確実な治療効果をもっているように思われた。

### 2. 早期腎症に対するアルドース還元酵素阻害剤の治療効果

野崎 修, 土田弘基

(国立佐倉病院・内科)

目的：早期腎症に対するアルドース還元酵素阻害剤（ARI）の治療効果を検討した。対象と方法：早期腎症を認めるNIDDM 6名に、ARIであるトルレストットを、6カ月間投与し、血圧、HbA<sub>1c</sub>、尿中アルブミン排泄率（AER）、Ccr を測定した。結果：6例中3例にAERの低下がみられ、Ccrの著明な低下が1例にみられた。特記すべき副作用はなかった。考案：ARIはアルドース還元酵素を阻害し、ソルビトールの蓄積を抑制することによって糖尿病の合併症の発症および進展を防

止し得ると考えられている。AERの低下が半数にみられたことより、一部の症例にARIの治療効果は期待できるが、Ccrが著明に低下する例もみられたことより、対象症例の選択は今後の検討が必要である。

### 3. 肥満患者の運動療法（基礎代謝測定をもとにした減量プログラム）

根本 晃

(船橋二和病院・健康運動指導士)

尾崎一成

(同・内科)

松尾 哲

(成田赤十字病院・内科)

当院では肥満患者に対し、600~800kcalの低カロリー食と運動療法の併用で減量を行っている。運動量は尿ケトンおよび血中3-OHBAをモニターして調節している。今回われわれは、患者の基礎代謝を測定し、エアロバイク（コンビ）を使用して運動による消費エネルギーを一定にすることにより1日の負カロリーバランスを算出した。体脂肪1kg当りの燃焼価を7,000kcalとして1カ月の体重減少を予測したところ、ほぼ同程度の結果を得、患者自身も意欲をそがれることなくプログラムを遂行することができた。しかし今回の症例では負カロリーバランスが1,300kcalを越えており、退院後に肺炎と脱毛を経験した。このことから1日の負カロリーバランスはアメリカ・スポーツ医学会指針に示されているように1,000kcal以内とし、血中3-OHBAは500μmol/l程度にとどめることが望ましいと考えられた。

#### [特別講演]

### I. 肥満と糖尿病

井上修二助教授(横浜市大・三内)

### II. インスリンの作用機構を尋ねて

河野哲郎名誉教授

(バンダービルト大・生理)